

令和4年度お茶の水女子大学経営協議会〔第3回〕議事録

日 時：令和5年1月17日（火）15：00～16：55

出席者：（学外委員）五十嵐委員、今川委員、河村委員、久能委員、小坂委員、齋藤委員、佐藤委員、篠塚委員、杉村委員、藤崎委員

（学内委員）佐々木学長、加藤理事、新井理事、石井理事、坂元理事、谷理事、赤松副学長、太田副学長、山下副学長（事務総括）

（陪 席）宮井監事、中野監事

小林（誠）副理事、曹副理事、藤原副理事、谷本副理事

水野文教育学部長、小林（功）理学部長、小谷生活科学部長、

浅田大学院人間文化創成科学研究科長

I. 議事録（案）の確認

記録内容及び大学ホームページへの掲載について、了承した。

II. 学長報告

1. 150周年特設サイトの開設について

佐々木学長より、資料に基づき、創立150周年特設サイトを公開したことの報告があった。

2. 文部科学大臣表彰について

佐々木学長より、本学附属高校がキャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰を受けたことの報告があった。

3. 令和4年秋の叙勲受章者について

佐々木学長より、令和4年秋の叙勲受章者として、藤崎一郎委員が瑞宝大綬章を受章されたことの報告があり、祝辞が述べられた。

III. 審議事項

1. 令和5年度学内予算編成方針（案）について

加藤理事より、令和5年度学内予算編成方針（案）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

藤崎委員より、創立150周年という一つの区切りを目指した一層の国際化と情報基盤強化が重要と考えて、寄附金、外部資金などによる財源確保のために、創立150周年である令和7年までの3年間のロードマップを考えていくことについて助言があった。

これについて佐々木学長より、意見をふまえて今後検討していくことの説明があった。

2. 令和5年度資金運用計画書（案）について

加藤理事より、令和5年度資金運用計画書（案）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

IV. 報告事項

1. 国家公務員の一般職の職員の給与に関する法律等の一部改正に伴う関連規則の一部改正について
加藤理事より、前回の経営協議会において、令和4年人事院勧告への対応として学内規則の改正を行うことについて学長に一任する旨の承認を得て、12月23日の役員会の議を経て施行したことの報告があった。具体的には、国立大学法人お茶の水女子大学役員給与規程、同職員給与規程の一部改正を行い、国家公務員に準拠し、役員の期末特別手当の掛率の引き上げ、職員の俸給の引き上げと勤勉手当の掛率の引き上げをしたことの説明があった。

2. 令和5年度運営費交付金内示の概要について
加藤理事より、令和5年度運営費交付金内示の概要について、資料に基づき報告があった。
次に、山下副学長（事務総括）より、施設整備費補助事業について、資料に基づき報告があった。
藤崎委員より、「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の順位が低い項目（常勤教員当たり研究業績数、寄附金等の経営資金獲得実績（伸び幅））についての、理由や改善策について質問があり、加藤理事より、寄附金の獲得の項目については、昨年度が高かったことが原因と考えられ、今後は創立150周年の募金活動等により順位の上昇する見込みであること、研究業績数の項目については、今後の産学連携や共創工学部の設置により研究業績数を伸ばしていきたいとの説明があった。

3. 令和4年度卒業者・修了者の進路状況について
新井理事より、令和4年度卒業者・修了者の進路状況について資料に基づき報告があった。
令和4年12月1日付けの報告であり、令和5年度第1回の経営協議会で改めて令和4年度末の進路調査状況について報告予定であることの補足があった。

4. 女性学長サミットの開催について
石井理事より、女性学長サミットについて、資料に基づき開催概要の報告があった。

5. 大学の世界展開力強化事業「グローバルリーダー育成のための「女子大学発」実学型 EDI プログラム」の実施について
石井理事より、大学の世界展開力強化事業「グローバルリーダー育成のための「女子大学発」実学型 EDI プログラム」の実施について、資料に基づき報告があった。

6. 五女子大学コンソーシアム協定調印式及びアフガニスタン女子教育支援20周年記念シンポジウム開催報告について
石井理事より、五女子大学コンソーシアム協定調印式及びアフガニスタン女子教育支援20周年記念シンポジウムについて、資料に基づき報告があった。
基調講演を賜った杉村委員より、学生による発表が優れていたとの意見があった。

7. 「平成30年度大学の世界展開力強化事業～COIL 型教育を活用した米国等の大学間交流形成支援～」総括シンポジウム開催報告について

石井理事より、令和4年12月15日に上智大学で開催した「平成30年度大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等の大学間交流形成支援～」総括シンポジウムについて、資料に基づき報告があった。

上智大学側として事業の立ち上げに関わられた杉村委員より、それぞれの大学がこの事業を活かし、更なる発展を遂げることを願うとの期待が述べられた。

8. 国立大学法人東京大学との連携及び協力に関する協定について

石井理事より、国立大学法人東京大学との連携及び協力に関する協定について、資料に基づき報告があった。

9. コンピテンシー育成開発研究所設立記念キックオフシンポジウムの開催報告について

坂元理事より、コンピテンシー育成開発研究所設立記念キックオフシンポジウムについて、資料に基づき報告があり、参加された五十嵐委員及び杉村委員より、感想が述べられた。

10. その他

(1) 令和4年10月～12月における本学の主な活動について

赤松副学長より、令和4年10月～12月における本学の主な活動について、資料に基づき報告があった。

VI. 意見交換

1. 学学連携のあり方について

佐々木学長より、近年国立大学間において、一法人複数大学制度の事例が増え東京都内の国立大学の統合のニュースが盛り上がりを見せている中で、小規模大学である本学は、その強みを活かし、現在のところ学学連携の推進に注力し、存在感を高めていくことをねらっていることの説明があり、続いて石井理事より、東京大学との包括連携協定について、資料に基づき説明があった。それらをふまえて、学学連携のあり方について、対話形式で意見交換を行った。

■学外委員からの主な意見等は以下のとおり。

久能委員：相乗効果を得るのは大学経営そのものではないか。例えば、寄附の集め方や大学債発行のノウハウなどについて情報交換をしたり、ポートフォリオを一緒に運用してもらったりするなど、いろいろな形での提携を検討してはどうか。

今川委員：①お茶の水女子大学では複数大学と包括協定を結んでいるが、各連携について、どのような観点でリソースの配分を考えているか。

②現在のお茶の水女子大学の価値は、女性教育への特化を通じて多様性を社会に定着させることにあると思うが、国立の大学法人として女性教育に特化しているのは1校だけになった。多様性の取り組みが成功するほど旧来的な価値が薄まる可能性も考えられるが、別の新たな価値を学学連携の中で見出すなど、ここから先に考えうる価値を構築していく戦略はあるか。

佐藤委員：①経営基盤の観点から、URA人材や研究機材等の東京大学との共同利活用は有意義と思われる。

②幼児から大学までの一貫した教育機関であることが強みであり、そうした強みを突き詰めることが重要。一例としてギフテッドの幼児教育など、我が国の科学技術力の底上げと

いう観点から両校のコラボレーションは意味がある。また「総合知」という観点も、東京大学との連携で強みとなるのではないか。科学技術の実装化に当たっては、人文系知識からのウェルビーイングといった視点も必要であり、お茶の水女子大学の持つ特色ある価値観を示してほしい。

③リカレント教育においても東京大学と協働していくとよいと思われる。

篠塚委員：大規模な東京大学との包括連携は、小規模大学が生き残るために、非常によいと思われる。現在、お茶の水女子大学のジェンダード・イノベーションが社会的に注目されているが、人材や研究施設が不足している。対応の1つとして、企業の参加が必要であるという点で、東京大学との連携のタイミングは良かった。また、包括協定の5年という期間も、ジェンダード・イノベーションの成果を形にする目途としてよいと思われる。対応の2つ目には、クロスアポイント制の活用により東京大学で研究を行うことだが、その場合は予算獲得から検討する必要がある。

河村委員：①東京大学との連携に当たっても、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場」という旗印を掲げ、他の大学でも共有して欲しい。

②東京大学とは、同じ文京区で近距離にあることをどのように活かせると考えているか。

久能委員：女性が少数派の組織の価値観の中にある東京大学の女子学生に、お茶の水女子大学に来てもらうなどの交流は、東京大学の女子学生にとってのエコシステムや気づきになるのではないか。

斎藤委員（後日連絡）：合併など二つを一つにするという事業は、成功例だけではなく多くの困難例も見られることであるが、合併によりあくまで一つの領域の創生（共創分野の融合）を図ることを目指すべき。学生を含む教育という視点の満足の判断も大切である。

■本学からの主な回答・発言は以下のとおり。

佐々木学長：東北大学とは、クロスアポイントメントでの教員の交流、中央大学とは、学生交流を予定しており、相手大学からは女子教育に関する連携の要望がある。

石井理事：現在、相手校から本学に期待されるのは、本学のこれまで築いてきた強い価値としてのジェンダー関連や男女共同参画がある。また、連携においては大規模の大学に吸収されることのないよう注意を払い、本学の強みについては常に考えている。今年度設置のSDGs推進研究所、コンピテンシー育成開発研究所といった、他大学に先駆けて行っていることを今後の連携に活かしたい。

坂元理事：本学における「総合知」は、教養知と専門知と実践知を組み合わせ活用していくことを指しており、文系・理系の融合という観点も含んでいる。創造性や問題解決力といったコンピテンシーの育成を通じ、総合知を身に付けるというコンセプトである。本学の特徴として、他大学との協働の取組みを進めたい。

石井理事：ウェルビーイングに繋がるものとしては、東京大学から本学に対し、スタッフ・ディベロップメント（SD）、ファカルティ・ディベロップメント（FD）としてジェンダード・イノベーションをテーマとした講話の要望があり、社会実装とウェルビーイングについても話題に盛り込むことを考えている。またリカレント教育については、本学には微音塾、東京大学には八重洲アカデミックコモンズというものがあり、受講生の確保等でも協力したい。

佐々木学長、石井理事：文京区とのコラボや区内大学同士の交流の場もあり、東京大学の女子学生も含む連携を検討していきたい。東京大学とも話し合い知恵を出し合いながら進めてまいりたい。

VII. その他

1. 令和5年度 主要行事予定表（案）〈令和5年1月17日時点〉について

佐々木学長より、現時点での令和5年度主要行事予定表（案）について、資料に基づき説明があり、次年度経営協議会についてご予定いただきたい旨を連絡した。

以 上